



マナティー研究所

Japan Manatee Education and Study Lab.

一般社団法人マナティー研究所

2023 年度

活動報告書



# マナティー研究所

Japan Manatee Education and Study Lab.

社) マナティー研究所 2023 年度 活動報告書

対象期間：2023 年 4 月 1 日～2024 年 3 月 31 日までの活動を報告します。

作成日 : 2024 年 4 月 10 日

## もくじ

1. ごあいさつ「参加者の声を聞きに行く」	-----	3
2. 環境教育の教材開発とワークショップの実施	--	4
3. 新聞、メディア等の掲載情報	-----	7
4. 助成金等	-----	8

添付書類（活動計算書および貸借対照表）



## 1. ごあいさつ

### 参加者の声を聞きに行く

理事 菊池 夢美

イベントやワークショップを行うときには、参加者の皆様にアンケートへのご協力をお願いしています。このアンケートは、参加者の皆様の満足度や、生物保全に関する意識などを調査するために実施しています。特に助成金事業として実施するイベントやワークショップの場合は、アンケート結果を成果物として提出する必要があるため、その回収が重要です。

しかし、一般的なアンケートの回収率はあまり高くなく、平均的な回収率は10~30%、高い場合でも30%以上とされています。私たちのイベントでも、その範囲内の回収率となっていました。これまでに、回答率を向上させるために様々な方法を試みましたが、あまり効果がありませんでした。

2023年は、助成金事業の中間コンサルテーションがありました。オンライン形式で事業評価を受け、専門家に相談する機会もありました。そこで、アンケート回収率を向上させる方法について相談しましたが、意外な回答が返ってきました。アンケートの回収は難しいということで、参加者に直接インタビューし、意見を書き取り、記録することも大切だと教えていただきました。他にも、メールやチャットでのコメントやメッセージ、手紙なども参加者の声として記録できるそうです。特に子供向けのイベントでは、付き添いの方にもインタビューすることが重要だそうです。これまでは受け身で参加者の意見を待っていましたが、積極的に聞き取ることの重要性を学びました。

2024年度は、できるだけ多くの参加者の意見を聞くために、マナティー研究所のメンバーの皆様にもご協力いただければと思います。また、参加者の皆様には、意見や感想などをお気軽にお話しただけると嬉しく思います。

今後も、マナティー研究所と共に、楽しい学びと活動をすすめていただけるよう、よろしく願いいたします。



## 2. 環境教育の教材開発とワークショップの実施

これまでにワークショップに参加して下さった皆さまの声を反映して、「切ってはってマナティーパズル」をリニューアルしました。マナティーの他に、ジュゴンとスナメリも完成できるようにし、捨てるパーツが無いようにしました。

新屋島水族館と連携したワークショップを定期的に行うことができるようになり、水族館ならではの教材を開発したいと考え、海の生きものの生態を模写したキーホルダーを考案しました。アマゾンマナティーとフロリダマナティーの生態が表現されており、このキーホルダーを見せながら他の人に生態を紹介することもできます（写真1）。また、水族館の動物たちを詳しく観察できるワークシートも作成しました。体の一部が穴抜けになっていて、観察して描き込むと完成するようになっています（写真2）。

新しく、海牛類ジュゴンについて学べるマンガ冊子の作成も行いました（<https://www.manateelab.jp/materials>）。タイでボトムアップ型のジュゴン保全が成功している例を取り上げています。このマンガ冊子と連携したジュゴンの動画教材も開発しました。また、「海を汚さないためにできる5つのこと」という冊子をウェブコンテンツ化して、海ごみ問題について詳しく学べるようにしました（<https://www.manateelab.jp/umi5>）。サイト内で冊子の無料配布も行っています。

2023年は、オンラインと対面、ハイブリッド形式でワークショップやイベントを積極的に実施しました（表1）。新屋島水族館ではゴールデンウィークと夏休みの長期休暇にワークショップを実施しています。江東区立東川小学校では年2回、学童保育クランテテでは年3回のワークショップを実施しました。また、神戸生涯教育では3講座を担当し、生物多様性について紹介しました。

特に大きなイベントは、博物フェスティバルへのブース出展でした。「本物の博士たちの海の動物マルシェ 海と日本 PROJECT」と題して、マナティー、ジュゴン、シャチ、ヒゲクジラの研究者たちを招待し、ブースで生態や研究紹介を行いました。環境教育に関心の高い研究者の皆様にご協力いただき、このような特別なイベントを実現することができました。

また、毎年恒例の「海牛祭り」は今年で6回目となり、「新春・海牛祭り -研究者×水族館のカフェトーク-」と題して、鳥羽水族館の若井館長、沖縄美ら海水族館の植田獣医師、京都大学 / マナティー研究所から市川准教授と菊池の4



# マナティー研究所

Japan Manatee Education and Study Lab.

名が登壇しました（写真3）。水族館を超えたクロストークが実現し、海牛類について深掘りすることができる特別なイベントとなりました。



写真1：新屋島水族館でのキーホルダーワークショップの様子



写真2：新屋島水族館で観察ワークシートを描き込んでいる様子



写真3：新春・海牛祭りの様子。



表 1. ワークショップ一覧

実施日	場所	イベント名	人数	満足度 (%)
2023/4/1	キッコマンアリーナ	絶滅したらどうなるの	22	100
2023/4/29	オンライン	マナティーってどんなどうぶつ？	8	NA
2023/5/6-7	新屋島水族館	博士と学ぼう-マナティーってどんな動物？ 海と日本 PROJECT	91	98
2023/5/16	神戸生涯教育	絶滅危惧種マナティーから考える生物多様性保全の重要性(1)	39	NA
2023/6/3	地球環境パートナーシップ ラザ	海牛類講座	NA	NA
2023/6/18	キャンパスが京都	生物多様性はなぜ大切か	91	NA
2023/6/20	神戸生涯教育	絶滅危惧種マナティーから考える生物多様性保全の重要性(2)	39	80
2023/6/22	オンライン	マナティーってどんなどうぶつ？	5	NA
2023/6/22	クランテテ	森はどうしてたいせつなの？	15	86
2023/6/24	東川小学校	イルカみたいに聞いてみよう	20	100
2023/6/30	福岡ビジョナリーアーツ	絶滅したらどうなるの？	30	NA
2023/7/22-23	九段下会館	本物の博士たちの海の動物マルシェ 海と日本 PROJECT	150	99
2023/7/29	キッコマンアリーナ	博士と学ぼう-マナティーってどんな動物？ 海と日本 PROJECT、 博士と学ぼう-海を守るためにできること 海と日本 PROJECT	76	100
2023/8/14-16	新屋島水族館	新屋島水族館のどうぶつたち お絵かき ワークショップ	140	96
2023/8/24	万座毛活性化 施設	教えて！海のどうぶつのこと	168	100
2023/10/11	神戸生涯教育	アマゾン ～先住民族ヤノマミ族～	32	84
2023/10/26	クランテテ	うみのごみはどこからきたの？	12	NA



2023/10/18	津田塾大学	マナティーの保全は何の役に立つ？	50	100
2023/11/4	東川小学校	おすしの魚はなんの魚？	20	100
2023/11/17	福岡ビジナリーアーツ	アマゾンの最強生物は誰か	11	NA
2023/11/17	福岡ビジナリーアーツ	外来種は悪者なのか	15	NA
2023/12/6	新羽小学校	絶滅したらどうなるの？	30	NA
2024/1/6	オンライン	新春・海牛祭り -研究者×水族館の カフェトーク-	56	NA
2024/1/6	オンライン	新春・海牛祭り -研究者×水族館の カフェトーク-	115	94
2024/2/17	外語大×北大	マナティーに一目惚れして研究をはじめ、 独立と自由を求めて団体設立へ	21	NA
2024/2/29	クランテ	絶滅したらどうなるの	12	100

### 3. 新聞、メディア等の掲載情報

- ・ 2023年9月24日 フジテレビ「没頭ガール」菊池夢美出演
- ・ 2023年10月5日 みなと新聞「漁業者と希少動物保護へ」
- ・ 2023年11月25日 太田市美術館・図書館  
対談「どうぶつのはなし 菊池夢美×大曾根俊輔」  
寄稿「アマゾン川の見えないマナティー」
- ・ 2023年11月28日 テレビ朝日「なにこれ珍百景」インタビュー出演
- ・ 2024年2月15日 ひとしずく株式会社ウェブ記事「Case 32」掲載  
<https://hitoshizuku.co.jp/works/case32/>



## 5. 助成金等

名称：独）環境再生保全機構 2023 年度地球環境基金「ひろげる助成」

活動名：カメルーン南西部における侵略的外来植物の生物的防除により、絶滅  
危惧種マナティーの生息地 回復、および漁業の正常化を目指す活動

要望団体：African Marine Mammal Conservation Organization (AMMCO)

代理人：一般社団法人マナティー研究所

金額：4200 千円

期間：2023 年 4 月 – 2024 年 3 月

活動概要：大型水生ほ乳類のマナティーは、IUCN レッドリストデータの絶滅  
危急種に指定されている。しかし、アフリカにおいては、漁網への混獲や食肉  
目的の密漁が続いており、マナティーの数は減り続けている。カメルーンに生  
息するマナティーにおいては、主要な生息地である Ossa 湖を軸に、漁網への  
混獲対策や保全活動が続けられ、地域住民や漁師らの協力を得た持続的な保全  
対策が実現している。しかし、2017 年より、侵略的外来植物（ジャイアント  
サルビニア）が Ossa 湖で急速に増殖し、マナティーのエサ植物でもある在来  
植物を枯死させ、生息地としての利用ができなくなっている。そして、湖  
での漁業も困難となり、地域経済は悪化している。さらに、現在は Ossa 湖か  
ら 25km 下流の Tissongo 湖にまでジャイアントサルビニアが増殖し、同様に  
マナティーの生息地を奪い、漁業活動を停止させてしまった。このままでは、  
マナティーの生息地を失い、湖の生態系は失われ、さらに、地域経済の悪化に  
よってマナティーの保全活動も停止してしまうと予想される。

本活動では、Ossa 湖および Tissongo 湖を対象に、昆虫を利用した外来植物  
の駆除を実施し、マナティーの生息地の回復を目指す。また、漁業の正常化に  
よって、これまでに導入を進めたマナティー混獲に配慮した漁業の持続を目指  
す。

名称：独）環境再生保全機構 2021 年度地球環境基金「はじめる助成」

活動名：生物多様性について考える環境教育を国内外の専門家と協力して開  
発、普及する活動

要望団体：一般社団法人マナティー研究所

金額：1800 千円

期間：2023 年 4 月 – 2024 年 3 月



# マナティー研究所

Japan Manatee Education and Study Lab.

活動概要：地球規模の課題として「生物多様性の保全」が挙げられており、このキーワードをニュースなどで耳にする機会が増えている。しかし、なぜ多様性の保全が必要なのかを理解している人は少ない。なぜ生きものが絶滅してはいけないのか？生きものが絶滅してしまったら、どんなことが起きるのか？多様性の価値について理解し、その保全の必要性について自分の考えを持つことが大切だ。

本活動では、子供から大人までを対象に、生物多様性の価値を正しく学び、保全の必要性について考えることができる環境教育プログラムを科学者、教育者、ワークショップのファシリテーターと協力して新しく開発し、その普及を目指す。そして、開発した教材を利用したワークショップづくりも行い、その実施マニュアルを作成、共有することで、教材が広く利用されることを目指す。さらに、開発した教材の翻訳、公開を行うことで、海外でも利用されることを目指す。開発した教育コンテンツはオンラインや連携先機関を通じて、広く利用されることを目指す。生物多様性の価値が社会に浸透することで、他の生きものとの共存の大切さが理解されることを期待する。

名称：日本財団 海と日本プロジェクト

活動名：絶滅危惧種マナティー等の海洋生物多様性保全に関する環境教育の実施 -本物の博士と学ぼう-

金額： 1950 千円

期間： 2023 年 4 月 – 2024 年 3 月

活動概要：2020-2021 年度の海と日本プロジェクト事業を進める中で、子どもたちの海の生きものへの関心が非常に高く、特に、絶滅の危機に瀕する海洋生物への好奇心が高いことがわかった。近年は「絶滅」をテーマにした書籍も人気があり、これをきっかけに絶滅危惧種への関心を持った子供も多い。これは、地球環境の悪化や将来の環境保全への見通しに対する子どもたちの不安の現れのように感じた。海洋生物の多様性は失われていて、それらは複雑多様な問題によって解決が難しいが、当団体には世界的な希少生物であるマナティーおよびジュゴンのフィールド研究者がそれぞれ所属し、現地での活動を展開している。博士たちは、対象生物への知的好奇心を持ちながら、共存に向けた活



# マナティー研究所

Japan Manatee Education and Study Lab.

動をすすめている。こうした大人たちの活動を紹介していくことで、子どもたちも積極的に自分ができることを探したり、将来への展望が持てるのではないだろうか。博士たちが、具体的にどのようなことを「楽しく」行っているのかを紹介することは、当団体の大切な役割だと感じた。

また、海洋生物への関心が高まっている一方で、「なぜ絶滅してはいけないのか？」について本質的な理解がされていないと感じた。海洋生物多様性の大切さを理解し、保全への意識を高めるためには、正しい情報、例えば研究成果を環境教育に活用し、普及させる必要がある。

そこで、1) マナティー等の海洋生物の研究者と連携した環境教育の開発と実践、2) マナティー等の海洋生物多様性保全に関するウェブコンテンツの作成、に取り組むこととする。

名称：株式会社ミツバ様からのご寄付

活動名：環境教育のためのコンテンツの普及および環境教育プログラムの実践

金額： 430 千円

期間： 2023 年 4 月 - 2024 年 3 月

活動概要：2020 年度から 3 年間のご支援をいただき、環境教育の教材およびコンテンツの開発、実践を進めてきた。そして、Web ページを構築し、環境教育コンテンツの普及をすすめている。2023 年度は、1) 研究者が監修・登壇する「生物多様性について学べる環境教育」の実施、2) 希少生物保全の現場を Web ページで発信、を目指して活動を進めていく。



# マナティー研究所

Japan Manatee Education and Study Lab.

## 2023年度 活動計算書

2023年4月1日から2024年3月31日まで

[単位: 円]

科 目		収支計算
(収入の部)	<b>I 経常収益</b>	
	1. 受取寄付金	2,614,150
	2. 受取助成金	7,950,000
	3. その他収益	
	ワークショップ収益	897,962
	雑収益	119,920
	<b>経常収益計</b>	<b>11,582,032</b>
(支出の部)	<b>II 経常費用</b>	
	1. <b>事業費</b>	
	(1) <b>人件費</b>	
	臨時雇賃金	0
	<b>人件費計</b>	<b>0</b>
	(2) <b>その他経費</b>	
	通信費	192,734
	会議費	533,056
	旅費, 交通費	1,131,560
	広告宣伝費	716,936
	事務用品費	11,254
	消耗品費	853,418
	図書費	58,920
	租税公課	16,350
	謝金	325,921
	支払手数	21,994
	雑費	281,718
	業務委託費	1,061,622
	預り金支出	81,279
	海外送金(助成金)	1,499,000
	<b>その他経費計</b>	<b>6,785,762</b>
	<b>事業費計</b>	<b>6,785,762</b>
	2. <b>管理費</b>	
	(1) <b>人件費</b>	
	役員報酬	880,000
	<b>人件費計</b>	<b>880,000</b>
	(2) <b>その他経費</b>	
租税公課		
雑費		
法人税等	70,000	
預かり金支出		
<b>その他経費計</b>	<b>70,000</b>	
<b>管理費計</b>	<b>950,000</b>	
	<b>経常費用計</b>	<b>7,735,762</b>
(当期収支差額)	当期正味財産増減額	3,846,270
(前期繰越収支差額)	前期繰越正味財産額	537,612
(次期繰越収支差額)	次期繰越正味財産額	4,383,882

## 2023年度 貸借対照表



# マナティー研究所

Japan Manatee Education and Study Lab.

2023年4月1日から2024年3月31日まで

[単位: 円]

科 目		金 額	
<b>I 資産の部</b>			
1 流動資産			
	現金預金	4,383,882	
	未収金	-	
	流動資産合計		4,383,882
	<b>資産合計</b>		<b>4,383,882</b>
<b>II 負債の部</b>			
1 流動負債			
	前受金		
	未払金		
	短期借入金	0	
	流動負債合計		0
	<b>負債合計</b>		<b>0</b>
<b>III 正味財産の部</b>			
	前期正味財産	537,612	
	当期正味財産増減額	3,846,270	
	<b>正味財産合計</b>		<b>4,383,882</b>
	<b>負債および正味財産合計</b>		<b>4,383,882</b>